

た新たな労瘵患者像を付け加えていく。安定した社会経済と豊かな都市生活の展開は、社会階層の固定化と消費生活の拡大をもたらし、ストレス社会を出現させた。日本近世史研究は、元禄期の京都洛中の自殺率が、現代日本のそれに匹敵することを明らかにしている。そのような社会状況のもと、労瘵は気の消耗＝「気虚」によってもたらされるだけでなく、ストレスによる気の滞り＝「気鬱」がもたらす時代病としても注目されるようになる。「気鬱」は、早期の治療を怠って重症化させると労瘵に進む、と考えられた。

元禄期の医学書は、「気鬱」の直接的原因として、男性の場合は武士や町人の職場における人間関係や経済活動を、女性の場合は、庶民に至るまでの「家」の成立を背景に舅・姑・夫に気に入られない嫁の精神的抑圧や、家庭内に閉じ込められた未婚女性・寡婦の性的欲求不満を強調する。中国医学では「気虚」に結びつけられたことがら、日本では「気鬱」と結びつけられるようになったのである。治療は気の鬱滞を取り除くことであり

(「順気」)、薬や鍼灸のほか、性的欲求不満解消のために早期の婚姻も有効とされた。

このような状況の中で、浮世草子に「気鬱」「気病み」という言葉が頻出するようになる。元禄期に医学的知が一般大衆へ広がることは先行研究が指摘するところだが、人びとは医学的概念である「気鬱」を日常生活の中で意識するだけでなく、現実に“労瘵症候群”とでも呼ぶべき労瘵様の症状を日常的に訴え始める。

ことに女性は男性よりも精神的に未熟であるため、「気鬱」の症になりやすいとみなされた。若い女性が、街角や寺社でふと見かけた美男への恋慕の情に身を焦がし、病の床に臥す、場合によっては死に至る、という浮世草子などにおけるありふれたモチーフ、すなわち「恋の病」としての労瘵がこうして成立する。その背景には、女性に対する当時の医学の身体観・病気観の広がりとしてを指摘することができよう。

(平成24年12月例会)

書籍紹介

C.J.S. トンプソン 著 (川満富裕 訳) 『手術器械の歴史』

原著は Thomson C. The History and Evolution of Surgical Instruments. New York: Schuman; 1942で、1999年に複製版が出版されている。ウェルカム医学図書館の代理人として医学関係の書籍と器械を収集したトンプソンによる手術器械の古典的通史の翻訳。100点以上の図版を使用し、外科・医学の発展と絡めながら手術器械の簡潔に変遷が述べられる。本文は器具ごとに章を分けて古代ギリシアから現代まで扱っている。訳者あとがきではトンプソンの紹介や日本における手術器械の歴史についても簡単に触れている。

目次	
序章	1
第1章 メス	4
第2章 切断ナイフ	12
第3章 ノコギリ	24
第4章 穿頭器	35
第5章 膺の拡張器と検鏡	50
第6章 頭蓋ノコ	62
第7章 異物鉗子と動脈鉗子	70
第8章 銃弾鉗子と銃弾摘出器	82
第9章 瀉血と静脈切開の器械—ランセット、	

吸角器, 乱切器	88	(澤井 直)
第10章 ターニケット	100	[時空出版, 〒112-0002 東京都文京区小石川
第11章 トロッカー	106	4-18-3, TEL. 03 (3812) 5313, 2011年11月, A5
第12章 手術台	113	判, 146頁, 2,500円+税]
訳者あとがき	129	

藤倉一郎 著

『瀉血の話』

瀉血の歴史を古代ギリシアから始め、盛んに使用された中世・初期近代を経て、19世紀に再注目されて使用が推奨されながらも後に衰退していく過程を扱う。各時代の代表的な医学者・解剖学者の学説を紹介しながら瀉血への賛否や効能についての変遷が書かれている。14～16章では日本における瀉血について扱う。

内 容

1. はじめに	7
2. 古代における瀉血	10
3. 中世における瀉血	18
4. パラケルズスの登場	42
5. ルネッサンスの幕開け	45
6. 近代医学の誕生	50

7. ハーベイの血液循環論	54
8. 一七世紀の医学	58
9. 一八世紀の医学	65
10. 一九世紀の医学	75
11. アメリカ初代大統領ワシントンの死	85
12. 瀉血反対論	87
13. 一九世紀アメリカ医学における瀉血	93
14. わが国における瀉血の歴史	98
15. 明治の医療改革	105
16. C型肝炎治療のための瀉血	108
17. おわりに	111

(澤井 直)

[近代文芸社, 〒960-1296 東京都文京区目白台
2-13-2, TEL. 03 (5395) 1199, 2011年11月,
B6判, 114頁]

石田 眞 著

『秋田医学史散歩』

1992年に出版された同名の書の改訂増補版。安藤昌益, 佐藤信淵, 小田野直武, 平田篤胤などの秋田ゆかりの医学関連の人物の事跡や著書の紹介を行うとともに、秋田における種痘や医学校の変遷などのトピックを扱う。各項目は数頁でまとめられ、項目の末尾には関連する現存の史跡が挙

げられ、史跡めぐりに役立つ一冊となっている。

(澤井 直)

[秋田活版印刷株式会社, 〒011-0901 秋田市寺内
字三千刈 110-1, TEL. 018 (888) 3500, 2012年
6月, A5判, 267頁]